

地域とともにある

勢いのある学校

No. 32 (R3. 1. 13発行) 文責 校長 福田雅也

高き志【こころざし】

大人になるとは…

11日は成人の日でした。コロナ禍の中で、成人式が開催中止や開催延期になった自治体も多いようで、今年の新成人は少しかわいそうな気がします。そんな新成人の若者たち同士が、数年後、数十年後に「そんなこともあったね」と笑って話せる日が来ることを願っています。

成人式直後ですので、今回は、成人式にちなんだ話題を書いてみたいと思います。

一つ目は、宮崎市の成人式で実際にあったエピソードです。

【水谷もりひと著「日本一心を揺るがす新聞の社説」より抜粋】

成人式の会場でステージが上がって暴れたり、外で酒を飲んだり、式の間中おしゃべりをし、来賓挨拶を茶化したりする新成人のことが大きな社会問題になったことがありました。そこで、宮崎市は会場を新成人の出身中学校に変えて地域の人たちによる手づくりの成人式にすることになりました。この話の筆者は、地元の中学校の成人式に行ってみようと思ったそうです。成人式らしく女の子たちの着物は豪華絢爛、男の子も原色の派手な紋付袴やスーツ姿でバッチリ決めています。その日は暴れる新成人はいなかったのですが、ふんぞりかえって話を聞いていたり、式の間中おしゃべりをしたりする光景はあったそうです。ところが筆者は、式後関係者から新成人のいい話を聞いたそうです。その話によると、全国展開している宅配便会社の仕事着を着た若者が、会場に入って来たそうです。受付をしていたその方が「住所を書いて下さい。最後に記念写真を撮って送ります。」と言うと「いやあ、この格好だから記念写真は結構です」と断ります。そのとき、その方はこう言ったそうです。

「何言ってるのよ！あなたが一番かっこいいですよ！」

筆者はよくぞ言ってくれたと思ったそうです。その方は「あの子は聴く姿勢も一番よかったです」と付け加えられたそうです。

後日、出来上がってきた記念写真を見せてもらおうと左端に写っていた緑色のジャンパー姿の若者が誰よりも誰よりもかっこよかったのでした。

その日彼は、1日休むとトラック1台分の荷物の配達が遅れる。人手も足りず、仕事を休むことができない。これらの理由で、配達途中で式典の会場に立ち寄ったとのことでした。

二つ目は、そうじ哲学で会社経営をされているイエローハットの鍵山秀三郎氏の「大人」についての定義です。

【鍵山秀三郎著「一日一話」より抜粋】

「わがまま」の中には、許せる「わがまま」と許せない「わがまま」があります。許せる「わがまま」は「自分のわがまま」、許せない「わがまま」は「人のわがまま」です。「自分のわがまま」が自分で許せなくなったら、本当の大人です…

本当の意味で大人になるとは、18歳で選挙権を得たり、20歳を迎え成人式に参加したりすることではなく、一つ目の話に出てくるような言動ができるようになったり、二つ目の話のように「自分のわがまま」を自分で許せなくなったりすることなのでしょう。

しつけや教育は、ある意味では「自分のわがまま」を許さないで、自己実現を目指しつつ社会に貢献できる子どもを育てる営みかも知れません。その視点から見ると、私たち小学校の教師は、学期ごとの成果や一年ごとの成果ばかりを目指すのではなく、ずいぶん先にある「自分のわがままを許せない、成長した子供たちの姿」をしっかりとイメージすることも大切なのだと思います。